大阪公立大学
Osaka Metropolitan University
学術情報リポジトリ

故荻原男教授略歴, 著書および論文, 弔辞

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2010-04-19 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 中村, 正雄 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10466/8748

故荻原明男教授略歴

年月	事記
昭和　四年　一月	東京に生れる
昭和二八年　三月	東京文理科大学哲学科卒業
昭和二八年　四月	東京文理科大学哲学科研究科入学
昭和三三年　三月	東京文理科大学哲学科研究科退学
昭和三四年　五月	東京文理科大学哲学科研究科再入学
昭和三五年　三月	東京文理科大学哲学科研究科退学
昭和三五年　四月	近畿大学非常勤講師
昭和三六年　四月	近畿大学工学部講師
昭和三七年　四月	近畿大学教養部講師
昭和四一年一〇月	近畿大学教養部助教授
昭和四七年　四月	近畿大学教養部教授
昭和四七年一〇月	近畿大学教養部一般教育主任
昭和五〇年　二月	文学博士（関西学院大学）
昭和五七年　四月	大阪府立大学総合科学部教授
	大阪府立大学大学院総合科学研究科教授
昭和五九年　四月一八日	西宮市立中央病院にて肝硬変により逝去

著書および論文

(1) 著書			
一、科学革命	昭和三六年 三月	森北出版	
二、哲学論集	昭和三七年 六月	河出書房新社	
三、科学革命の新研究	昭和四一年 二月	日新出版	
四、一七世紀科学革命の形成とその諸問題	昭和四五年 三月	岩波書店	
五、科学の精神	昭和五〇年 四月	創元社	
六、近代科学の起源	昭和五六年 四月	同	
七、自然科学史	同	同	
八、ニュートン	昭和五七年 四月	講談社	
九、科学史夜話 —科学の古典への招待—	昭和五八年 四月	創元社	
(2) 論文			
一、「プリンピキア」初版について	昭和五四年 九月	近畿大学学報	
二、アインシュタインとドストエフスキー	昭和五五年 九月	同	
三、フックとニュートン	昭和五六年 八月	同	
四、ヨーロッパ近代文明の源流	昭和五六年一一月	同	

弔辞

中村正雄

死者をとむらう弔詞を、私よりも十年も若い荻原君の霊前で述べることになろうとは、まことに感無量であります。

想えば君との出会いはもう二十五年くらいまえのことになるでしょうか。不思議な縁で、君の近大への就任にさいして、私はまったく未知の君の名目上の推薦者になりました。そのときから、君との、出会うことは少なくても離れることのない、「星の友情」がはじまりました。

そのごしだいに君との交際をとおして、君が類い稀な研究者にして生活者であることがはっきりしてきました。それは、君においては、研究と生活とがまさに一体化していたことであります。私の知るかぎり、これは故田辺元先生においてだけ前例を見いだすことのできることでした。研究に焦点をあわせて全生活をそれに向けて制御するというようなことは、云うは易く、行なうは難いことであり、田辺先生のような例は空前絶後かと思っていました。しかし、それが絶後でないことを荻原君が実証してくれました。君はまさしく大学教授の典型というに値する人でした。

君との対話で、記憶に残ることばは多々あります。君が何気なく「先月はサラリーの半分以上、本を買いましてね」と平然と語るのを聞いたときなど、私は驚かされもしましたが、また畏敬の念を禁じることができませんでした。と申しますのは、そのような発言の背後には、冬にも平気で夏服を着用していた君の生活を見ていたからであります。この後者の面からだけしか観察されないとき、君は世俗的には多少奇人と見られたかもしれませんが、前者の面を知る私には、君はやはり偉大と映りました。現在、君の遺宅に残されてある三万冊の蔵書はそのようにして集められたものであります。

君が全力をあげて究明した近代科学の形成が現代人の生活を根底

から規定していることはたしかに否定できません。近代科学は近世の歴史において、ルネッサンスや宗教改革よりもはるかに大きな歴史的社会的影響を及ぼしています。ルネッサンスや宗教改革が或る意味では、特殊ヨーロッパ的出来事であったが、近代科学は汎世界的事件であるといういわゆる科学革命の説を、君が熱情をこめて説くのを十数年まえに聞いたとき、思想史研究の異なる局面に取りくんでいた私にも、君の立言の真理性は容易に理解しうることでした。そして、そのような立場そのものも、しだいに理解と共感との輪をひろげつつあるように見うけられます。君が類い稀な研究生活をとおして遺した、『科学の精神』、『近代科学の起源』、『ニュートン』、『科学史夜話』等の著書が多数の読者にむかえられていることは、そのことを立証して余りあるといえるでしょう。

君はまた、ただ「研究の鬼」といういわば、ハードな一面性の人につきず、いはばソフトな「詩人の鬼」をもった人でした。このことは、君の著書の中に多く引用されている詩や劇のことばが示しています。さらに、それは、教え子たちへのあたたかい指導となってもあらわれていました。ドイツ語に echt（エヒト）という語があります。語義辞典によりますと、「つくりものでない」、「まじりけのない」、「いつわりのない」、「真実の」、「ほんものの」等を意味する形容詞として説明されています。人工甘味料だらけの戦時中、砂糖だけの甘いシルコなどをご馳走になったときなど、その味とともに、それをつくってくれた人の心情にほっとしたものでした。私は荻原君に出合ったことを、このような意味で、人生の甘露として、ほっとした者です。終りに、君のさいごの著書『科学史夜話』に引用されているエウリピデスのことばを孫引して、この弔辞の結びとしたいと思います。

「誰か知るこの世の生は
死にほかならず
死こそ　げに　生ならずや」